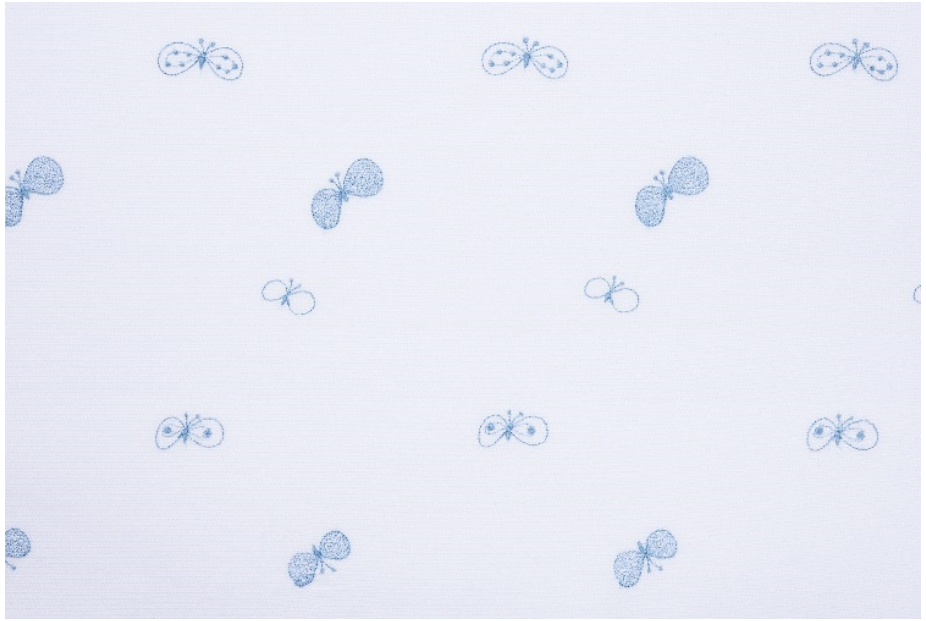
資料６

皆川　明（みながわ　あきら）

デザイナー

1967年東京生まれ。1995年に自身のファッションブランド「minä（2003年よりminä　perhonen）」を設立した。オリジナルの図案とストーリー性のある豊かなデザインで国内外より高い評価を受ける世界的なデザイナー。　服飾のみならず，インテリアファブリックや家具，陶磁器などのデザインを幅広く手掛けている。

2016年には「2015毎日デザイン賞（毎日新聞社主催）」，「平成27年度（第66回）芸術選奨文部科学大臣新人賞（文化庁主催）」を受賞。2018年より日本とフィンランドの親善大使を務める。



国内外の生地産地と連携し，素材開発や技術開発にも精力的に取り組む。ブランド名は，皆川氏がライフスタイルやカルチャーに共鳴し，愛着を持っているフィンランドの言葉から取った。「minä」は「私」，「perhonen」は「蝶」を意味する。

call　ショップ・ギャラリー・カフェ

東京都港区南青山（表参道）

callは2016年にオープンした東京都の南青山にあるミナ ペルホネンのライフスタイルショップ。　洋服はもちろんのこと，家具やインテリアファブリックなど多彩なアイテムを扱っている。店内に併設されているカフェでは，各地から届く新鮮な野菜をベースにしたスープや食事などが提供される。

また，皆川氏と縁のある岩手県の農家と連携し，同県で収穫される野菜等の産直販売も行っている。

minä　perhonen　Matsumoto　ショップ

長野県松本市

地方都市としては初となるミナ　ペルホネンの直営店で，皆川氏が松本市を訪れた際に建物の風情や趣に魅力を感じ，出店を決めたという。明治40年頃に建築された薬局をリノベーションしてオープンした。最新のコレクションの洋服や小物をはじめ，余り布を用いて作られたプロジェクト“piece（ピース）”やベビーのアイテム，食器やインテリアファブリックを取り扱っている。

東北との関わり

南三陸町　南三陸ミシン工房

海外のストリートカルチャーから再流行したけん玉を軸とした復興支援プロジェクトの一環で，同工房がミナペルホネンデザインのけん玉袋を製作することになった。仕上りの美しさに感心した皆川氏が，その後，同工房にミナペルホネンの小物縫製を依頼，専用の工房を設立することとなった。

陸前高田市　陸前高田アムウェイハウス　まちの縁側

市内中心地に被災地コミュニティー再生支援として，一般財団法人日本アムウェイ財団が整備している複合施設（設計：隅研吾氏）。施設内のカーテンや照明のかさ，椅子の座面といったファブリックにミナ・ペルホネンの布を使用するなど，インテリアに皆川氏が携わる。

岩手県北地域への貢献

岩手県県北地域における，繊維及びファッション関連のビジネスの発展に寄与したとして，第38回繊研賞を受賞した。

藤森　照信（ふじもり　てるのぶ）

建築家

1946年長野県生まれ。71年東北大学工学部建築学科卒業，78年東京大学大学院博士課程修了。東京大学生産技術研究所教授に就任。2010年に東京大学を定年退職，東京大学名誉教授。16年東京都江戸東京博物館館長に就任。

1991年に建築家デビュー。建築史家として日本近代建築を研究するかたわら，80年代に赤瀬川原平らと路上観察学会，縄文建築団を結成し，自由な発想とユーモア，現場の行動力とで「建築」の間口を世にひろく開いた。建築家としてデビューしたのは44歳のとき。それから今日まで，奇想天外な風貌，なおかつ周囲の環境との調和，そして自然素材を生かす建築スタイルが特徴で，比類なき建築家として40余りの作品を生み出してきた。

藤森氏が手掛ける建築物は，各都市の新たな観光スポットとなっており，近作の「ラ　コリーナ近江八幡」は，琵琶湖等の観光地を抑えて滋賀県で最も集客数（年間300万人）が多い観光地となっている。

ホホホの森が実現すれば，北海道・東北地方初となる藤森建築が誕生する。

モザイクタイルミュージアム（岐阜県多治見市）

藤森氏の作品例

La Collina （ラ コリーナ） （滋賀県近江八幡市）

ラ コリーナ近江八幡は，和・洋菓子の製造販売を手掛けるたねやグループのフラッグシップ店。和・洋菓子（バームクーヘン）のメインショップをはじめ，カステラショップやギフトショップなどが併設されている。背景の八幡山に溶け込む自然的な外観が特徴。

滋賀県の観光地である琵琶湖等を抑え，滋賀県随一の観光客数（2017年度/285万人，2018年度は300万人を超える）を誇る。

イードット本店 （東京都台東区）

「途上国から世界に通用するブランドをつくる」を理念に掲げる，マザーハウスの新ブランド「e.」（イードット https://www.edot.jp/ ）の本店（東京都台東区台東）を藤森氏が設計・デザインを行った。

長野県産のクリの木を使用した什器や，滋賀県の苔装飾など自然素材を基調にしたインテリア，曲線を生かした独特な形の入り口と窓は有機的なブランドイメージを表現している。

皆川 明 × 藤森 照信

盛岡城跡公園芝生広場に建築される shop & gallery & café は，㈱minaが初めて，新築して財産所有（他のショップは，中古建築物を購入または賃貸でﾘﾉﾍﾞｰｼｮﾝ）する建築物である。㈱minaが初めて財産所有する建築物の建築設計を依頼したのが，藤森照信氏。建物外観は藤森氏，建物内装は皆川氏，広場は皆川＋藤森＋市役所＋市民協働で行う盛岡オﾘｼﾞﾅﾙの都市公園となる。

㈱ミナのブランド「minä perhonen」の服飾品等は**20代から60代の幅広い世代の女性から根強い支持**を受けている有名ブランド。東北では青森県立美術館が minä perhonen の服を制服としているが，**店舗は東北初**となる。㈱ミナは，今まで，既存建築をﾘﾉﾍﾞｰｼｮﾝするという限られた空間での表現であったものが，広場，建物外観，建物内装及び広場と広いオープンスペースをプロデュースする。㈱ミナにとっては，新しい境地を拓くための取り組みである。

一方，建築家 藤森照信氏は，オーダーﾒｲﾄによる自然を生かした建築を表現しており，その独特な建築物は個性的，かつ，ﾜｸﾜｸした楽しみ感を与えるもので，藤森建築は建築を学ぶ者だけでなく，色々な方から根強い支持を受けている。藤森氏が手掛けるとなれば，その建築物や空間は，ジブﾘ的空間として各種方面から大々的に取り上げられる。また，関東から九州にかけて，藤森建築物は点在しているが，東北以北にはなく，**東北・北海道初の藤森建築**となる。

岩手医科大学移転やななっく閉店等の盛岡市経済にとっての暗いニュースがあるなか，ホホホの森ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄとバスセンターﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄが同時期に運営開始となれば，滋賀県近江八幡市のﾗｺﾘｰﾅ（La Collina）程度の**観光客数の増加（約250万人）**が想定される。

本件の事業提案が実現できれば，観光客数の増加から，内丸地区，河南地区，菜園地区，東大通地区，大通地区等への経済波及効果が想定され，空き店舗に新たなコンテンツが生まれることで，**地域経済が活性化**されることを期待している。